

芹沢長介切込焼コレクション

所在地 宮城県加美郡加美町字西田三番五番地（生涯学習課）

指定 加美町指定有形文化財（工芸品） 令和5年3月23日

概要

本コレクションは、故芹沢長介氏が収集した239点の切込焼のコレクションで、昭和62年に加美町（旧中新田町）に寄贈されたものです。

氏は、東北大学名誉教授・東北福祉大学名誉教授の考古学者であると共に、型絵染の人間国宝である芹沢銈介の長子として美術工芸家としても大変著名です。このコレクションは氏が双方の視点をもって蒐集したもので、当町を代表する文化財である切込焼を知ることができる歴史的資料であり、芸術工芸的コレクションとしても優れたものです。

内容は、染付徳利、染付碗、染付皿、型打皿などの切込焼の代表的な器種のほか、水差、香炉、型打水滴、筆筒などがあり、切込焼で制作された器種をほぼ網羅しています。また、多量に生産された日常雑器から高級器まで揃えられていることから、切込焼の全様を知ることができるコレクションとなっています。中でも特筆すべきは、伝世品が非常に少なく、その美しさから「東北陶磁の華」と呼称される切込三彩を17点含むことです。茄子紺・白・トルコブルーの三色の発色が美しく、磁器三彩の華麗さを示す極めて重要な資料といえます。

現在は、コレクションの一部を切込ふるさと陶芸館内の「芹沢長介切込焼コレクション展示室」にて公開しています。

